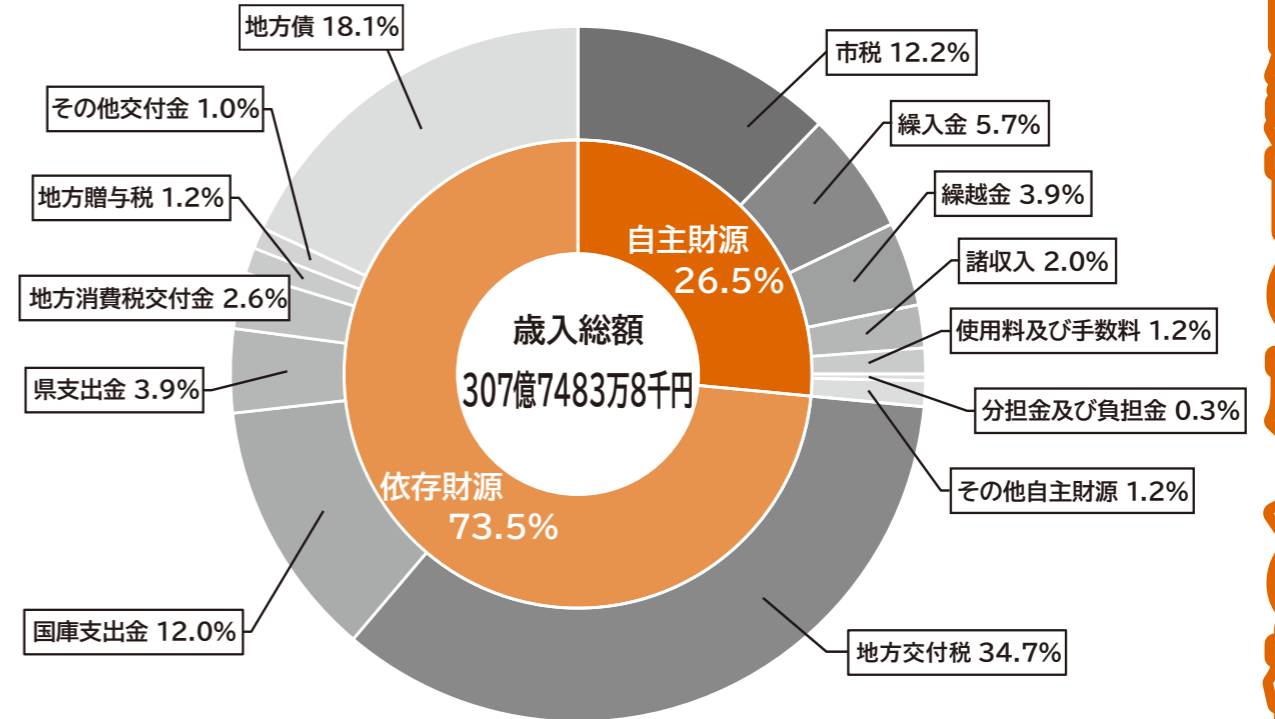


# 議会全員協議会開催

# 高梁市の歳入の構造について

令和6年度歳入は普通会計で307億7483万8千円となりました。市が独自に調達できる「自主財源」は81億5901万円で、国や県などに依存している「依存財源」は226億1582万8千円で、歳入全体の7割以上を国や県などに依存していることになります。

## 令和6年度歳入構造(普通会計)



普通会計とは、一般会計と特別会計のうち公営事業会計（上水道・下水道等の公営企業会計及び国民健康保険事業特別会計等）以外の会計を統合して一つの会計としてまとめたもの。

## 基金(預金)の状況について

高梁市には全部で33項目の基金があり、それぞれの基金の目的に沿った支出が行われています。令和6年度の基金残額は全体で83億7949万円で、令和5年度に比べ7億7756万9千円（8.5%）減少しています。

また、災害などの不測の事態や年度間の財源不足に備えるための預金である「財政調整基金」の残高は19億2846万4千円で令和5年度より1億1021万4千円（6.1%）増加しています。これを市民一人あたりにすると約7万5千円となります。

## 地方債(借金)の状況について

高梁市の借金である地方債の借入金は、全体で329億2401万円となっています。このうち「臨時財政対策債」を除けば267億6688万円で、令和5年度に比べ26億8930万円（11.2%）増加しています。これを市民一人あたりにすると、約105万円となります。

「臨時財政対策債」とは、国から地方自治体に交付される「地方交付税」の財源が不足した場合に、その不足分を一時的に地方自治体が借入れを行う地方債のこと

8月22日に議会全員協議会が開催され、執行部から「高梁市総合計画後期基本計画について」、「高梁市行財政改革について」の説明がありました。

### 高梁市総合計画 後期基本計画について

市のまちづくりの指針となる総合計画は、令和3年度から令和12年度までの10年計画であり、本年度で前期基本計画の5力年が終了。現在、来年度から5年間の後期基本計画を策定しています。後期基本計画は、人口減少や少子化の進行、地域経済や暮らし方の変化等、本市を取り巻く環境の変化を正面から受け止め、市民が将来にわたって安心して暮らせるまちづくりのための道筋を示す極めて重要な指針となり、前期基本計画の成果を着実に引き継ぎ、必要な改革や新たな挑戦にも積極的に取り組む必要があると報告がありました。

議員からは、重要業績評価指標（KPI）の達成状況や人口ビジョンの見直し、市の実情に即した計画策定に取り組むべき等の意見や質問がありました。

### 高梁市行財政改革について

令和6年度からの第4次行財政改革プランに基づき、財政規模に見合った歳出構造への転換を進め、将来にわたって持続可能な行財政運営を目指し、現在、その取り組みが進められています。

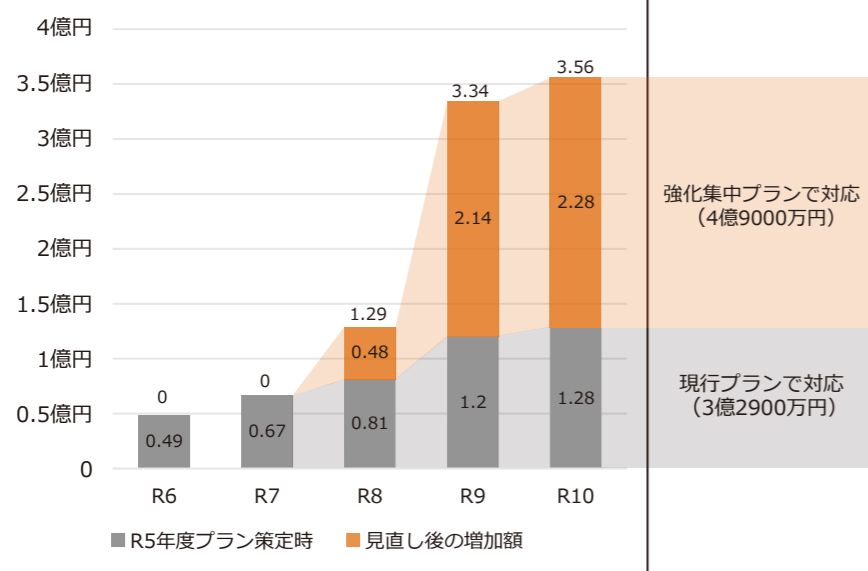
しかし、昨今の急激な物価高騰や人件費の上昇等、本市を取り巻く社会環境が加速度的に変化している中、今後、経常収支比率が100%を超える試算が出るなど、想定を上回る収支不足が見込まれています。このため、現在の行財政改革プランの取り組みに加えて、緊急で3年間の強化集中プランを策定し、危機的状況に対応していきたいとの説明がありました。

議員からは、人件費や基金、市税等に関する質問があり、行政、議会、市民を含めたオール高梁で取り組む必要があるとの意見がありました。

### 「総合計画」とは

本市が目指す都市像とそれを実現するための施策の方向性を明らかにする市の最上位計画です。さまざまな施策や事業を総合的かつ計画的に推進するための行財政運営の基本方針を示すものであり、高梁市が進むべき羅針盤、指針としての役割を担っています。

収支不足額



当初の計画を立てたときには、令和8年度から令和10年度の3年間で約3億2900万円の収支不足を見込んでいました。しかし、急激な物価高騰・賃金上昇により、令和6年度決算を基に改めて試算したところ、令和8年度から令和10年度の赤字は約8億1900万円に増える見込みとなり、当初の見込みより約5億円の財源不足が追加で生じています。